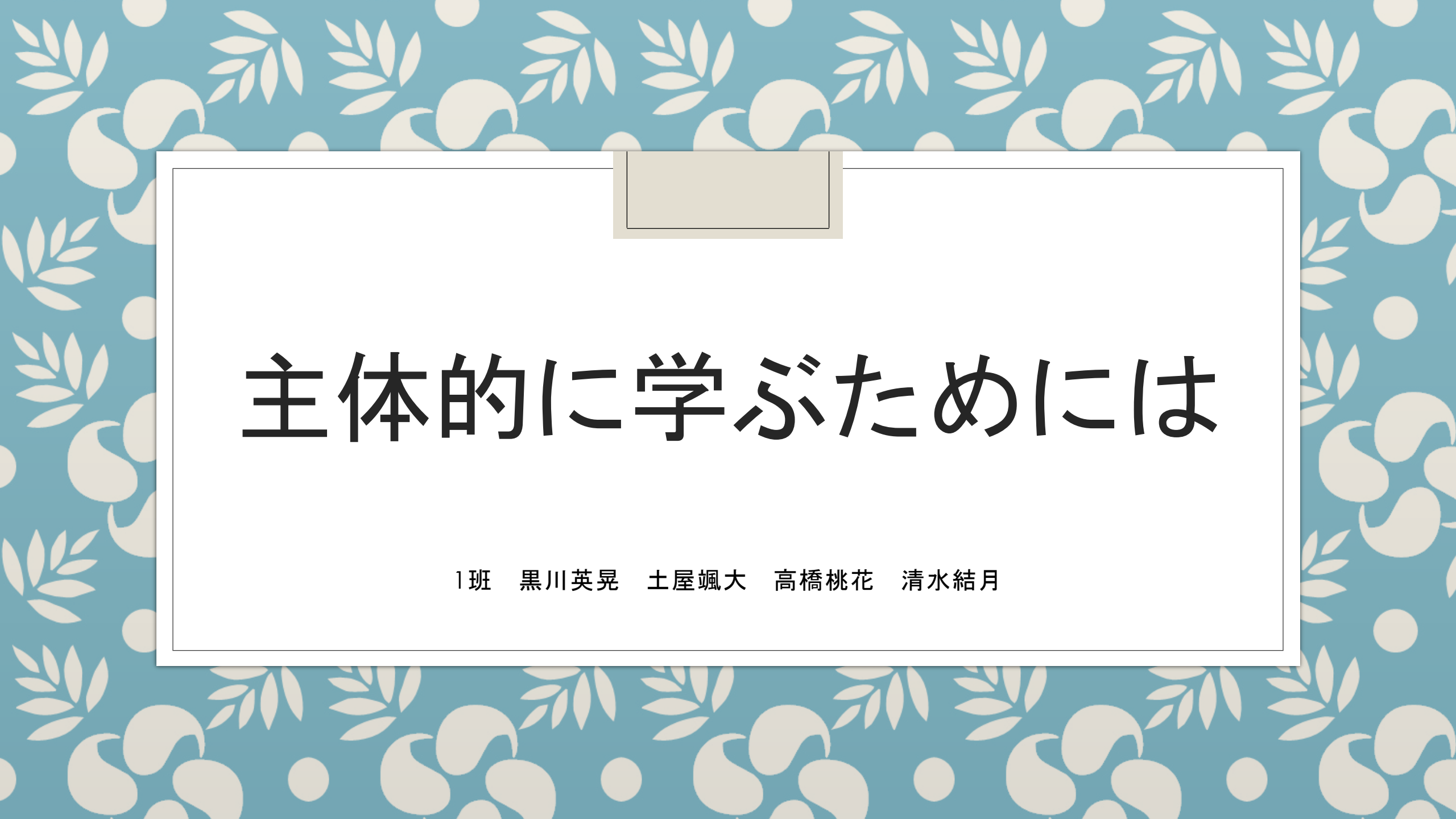




# イノベーターティブラーニング

前川ゼミ



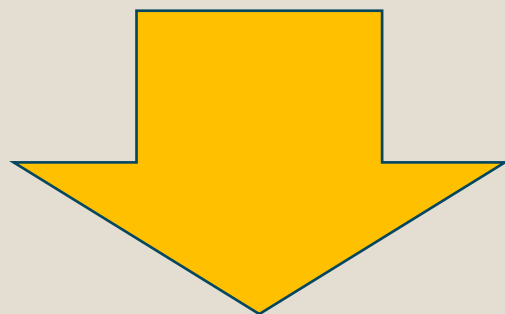
# 主体的に学ぶためには

1班 黒川英晃 土屋颯大 高橋桃花 清水結月

課題



主体的な学びができていない

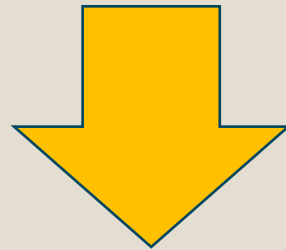


子供の興味の方角性が変わってきている！！

# そもそも主体的な学びって？

文科省では

「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」ことだと定義

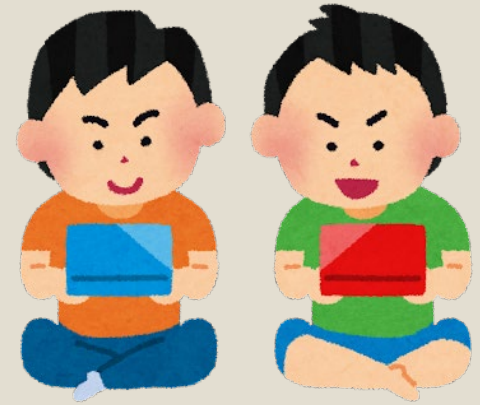


- ・自らやる気を持って学習に取り組むことである！！

# なぜ主体的な学びが必要なのか？

- 社会が大きな変化を続けていて先が見えない。
- これからの社会を生き抜いていく中で知識が必要
- AIの発展も進んできており、個人や社会全体の成長のために新たな価値を生み出して行くことが求められている。

# 子供の興味が変わってきた理由



- 学習よりも興味がひくものが出てきている。
- 「褒められたいから」「怒られるのが嫌だから」など外発的動機付けでは本当のやる気を出すことができない



- 自分から「やりたい！！」と思っていることには勝てないから。

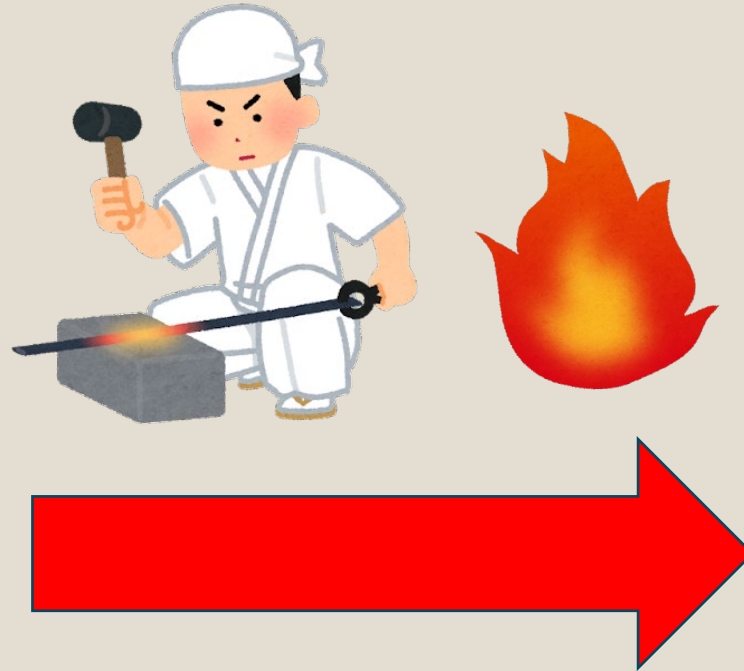
# 主体的な学びに必要なのは

- こども自身が学ぶ意義を理解し、難しいと感じる場合でもそれを自ら乗り越えられる動機づけが必要
  - 好奇心や興味関心などの内面的な欲求からくる**内発的動機付け**
  - 子供の心に火をつけること
- ※** 自発的にやっている子に対して報酬を提示するのは**NG**！！

# 子供の心に火をつけるとは

- 子供を「鉄の塊」とした場合

そのままでは  
加工するには  
削るか叩くか  
しかない。

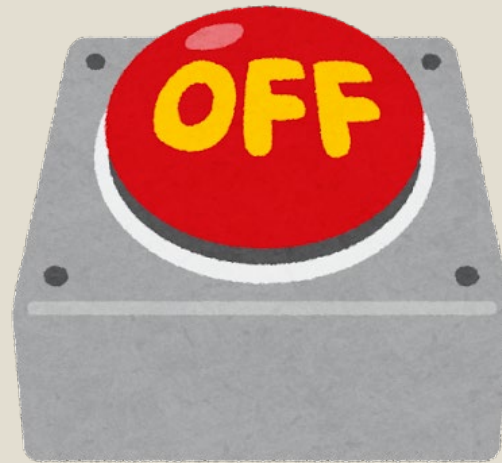


自ら変化すること  
ができる！！



# 内発的動機付けを継続させるには

- やりがいや達成感を得ること
- 結果だけでなく過程も評価し、褒めること
- 大きな将来の目的に向けて、小さな目標を積み重ねていくこと



# 海外の例（フィンランド）



- 「なぜ」を追求する授業

生徒自身が考え、教師はそれをサポートする存在

- クロスカリキュラムの導入

いくつかの教科を相互に関連付けて学習する

- 教師が自分で教科書を選ぶことができる

教師が一番扱いやすいもの、その場にいる生徒にあったものを使用することができる

# 授業形式の違い



海外→生徒自身が「問い」を考える授業

日本→「問い」と「正解」を習う授業

→これによって生徒の意欲が失われるのでは？

# できること

- ・ **ひとりひとりが授業目標を立てる**

何を学ぶのかがはっきりし、意欲の向上につながる

- ・ **実例と共に教える**

数学、理科などが社会の中で実際どう活用されているのかなど  
学んだことを応用して考えることができるようにする

- ・ **まずは生徒自身で考えさせる**

はじめから答えを教えないことで、生徒自身が考える力を養う